

クレバーベアゲーム・反対はどれ？

ハバ社(ドイツ)

1～4人で遊べます。対象年齢 3歳～
ゲーム所要時間:約5～10分

セット内容:クレバー・ベア君1個、カード10組(20枚)、カード枠1個。

「おっきいって、なに？」とベアちゃんが、おとうさんに聞きました。

「小さいの反対さ！」と答えて、新聞を読み続けます。

「ああ！」と片足でぴょんと跳びながら、ちょっと考えたベアちゃん...突然大きくジャンプして、おとうさんが読んでいる新聞の横からのぞきこみ、たずねました。
「だけど、はんたいってなにさ？」

おとうさんは新聞を横におき、「おいで、教えてあげよう」と立ち上がりベアちゃんを小脇にかかえました。



親愛なるご両親へ:

ゲームを始める前に、お子さんといっしょにちょっとカードの絵を見てください。カードに描かれている「反対のペア」について表現してみましょう。そして子どもが日常生活の中で出会う「反対のペア」についていっしょに考えてお話してください。

このゲームには、次のような「反対のペア」があります。

・大きいー小さい・明るいー暗い・いっぱいー空っぽ・上ー下・開くー閉じる・前ー後ろ
・軽いー重い・清潔ー不潔・うれしいー悲しい・湿っているー乾いている

ゲームのねらい

正しい「反対のペア」を探し出しましょう。

クレバー・ベア君が答え合わせを手伝ってくれます。

準備

カード(20枚)をよく練り、裏向けにして置きます。

カード枠とクレバー・ベア君も用意しておいてください。

ゲームの進め方

時計回りに進みます。

一番背の低い人から始めましょう。それは嫌ですって？それでは、一番背の高い人から始めましょうか？ほら、ここに最初の「反対のペア」が見つかりましたね。

最初のプレイヤーは、カードを2枚選び、自分の前に表向けて並べて置きます。

・そのカードが、「反対ペア」ではないと思ったら...

残念！また裏返してもどします。

・そのカードが、「反対ペア」だと思ったら...

やったね。どんな反対か言ってみて。わからない時は誰かが助けてあげてね。

さあ、それではクレバー・ベア君で正解かどうか確かめてみましょう。

カード枠の中にそのカードを並べて置き、中心にできる穴にクレバー・ベア君がびたっとはまれば「反対ペア」で正解。はまらなかった時は、「反対ペア」ではなく不正解ということになります。

→正解だった時。

そのペアのカードをもらえます。自分の前に表向けて置いてください。もしも、さっき誰かに助けてもらったならば、その人とカードを分けてください。

→不正解だった時。

裏返してもどします。次の人の順番になります。

すべてのペアが正しく見つければゲームは終了です。獲得したカードを積んでみましょう。

カードの山の高さで勝敗を決めます(勝者は一人だけでなくてもかまいません)。

こんな工夫をしてみてもいい？

・ゲームをもっと簡単にするために。

→難しいようなペアを始めに抜いておきましょう。

・ゲームをもっと難しくするために。

→2枚目のカードをとる前に、どんな反対ペアになるか言ってみてください。記憶力と想像力だけが頼りですね。ちゃんと表現できて、しかもそのペアが正解のペアであればカードをもらえます。

アイディア: Anja Dreier-Brückner

デザイン: Anja Dreier-Brückner